



ふれあい119

「県内救急隊員から初の女性救命士が誕生」

～3ページに掲載～

山岳救助訓練

当消防組合では山岳救助等の初動体制の確立及び現場指揮本部との連携、さらには日頃訓練してきた技術を山岳現場で実施し、併せて管内の登山ルートを確認することを目的として10月の13日・14日の2日間牛形山で行いました。



平成17年10月
牛形山

山岳遭難事故防止について

北上消防署長 千田 祐

雄大な奥羽の連なる山々のグラデーションは、どの峰も四季折々の装いを替え、その美しさは多くの人々に感動と安らぎを与えてくれます。しかし、この素晴らしい大自然も時には登山者等に過酷な試練を与え、尊い生命をも奪うことがあります。

近年は交通機関の整備をはじめ、登山装備の発達、高齢化社会や余暇の増大等を反映して、中高年登山や溪流釣り等レジャー・観光型登山者が多くなっており、それに伴い日程や装備に余裕のない登山者が増加し、体力不足や技術未熟による遭難が発生しています。

救助活動は、岩手県防災ヘリコプターとの連携した迅速な救助活動が定着しています。しかし、天候不良時や夜間においてはいくら機動力があるヘリコプターであっても利用できません。

遭難現場では、常に昼夜をたがわず、当組合の救助隊員は危険を顧みず命を賭して救助活動を行っております。つきましては、山を愛し、山を尊ぶ全ての方々に山岳遭難の実情を知っていただき、再び悲劇が繰り返されないことを願っています。

春の全国火災予防運動

期間 3月1日～3月7日

春は空気が非常に乾燥して、火災の発生しやすい季節です。

火災から家族の尊い生命を守り、また大切な財産を失わないために、次の事に注意しましょう。

「住宅防火 いのちを守る」 「七つのポイント」

―三つの習慣・四つの対策―

●三つの習慣

- 寝たばこは、絶対やめる。
- ストープは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
- ガスこんろなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。

●四つの対策

- 逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。
- 寝具や衣類からの火災を防ぐために、防災製品を使用する。
- 火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器等を設置する。
- お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力を体制をつくる。



ストーブから火が…



今お使いのストーブ、今年で何年目になりますか？ ストープも機械。いつかは壊れる時がきます。暖かくなならない故障なら困るだけですが、火事の原因になるような故障を起こしたら一大事。

「いつもより石油くさい。」「音がどうも変だ。」ちよつとした違和感は、ストーブからのSOS、すぐに点検してあげましょう。

それでも、万が一、ストーブから火が出ているのを発見した場合はどうすればよいでしょう。ストーブが原因の火災は、案外と家の人が早くに気付く場合が多いものです。火がストーブのまわりだけの場合は、落ち着いて**消火器**で消火しましょう。

もし、消火器が無かったら、やむを得ません。やけどに十分注意しながら、毛布などを利用した消火方法を試してください。イラストのように、**水で濡らした毛布**などで、すき間ができないようにしっかりとおおいます。さらにその上からバケツなどで水を掛けます。もちろん、119番への通報も忘れずに！



怖いと思ったらやめましょう。無理は禁物です。めくってもいけません。

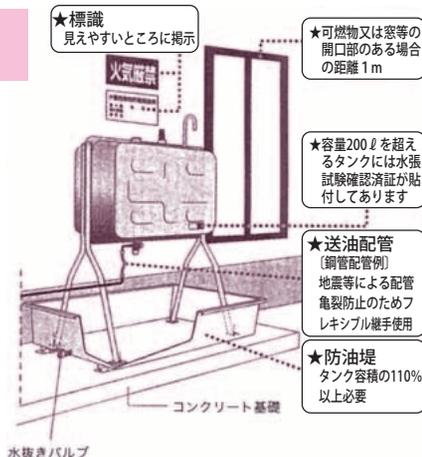
「お宅のホームタンクの管理は万全ですか」

組合管内においてホームタンクから灯油を小分け中、漏れ出す事故が多く発生しています。又、いたずらによると思われる行為により、漏れ出す事故も数件発生しています。いたずらされて灯油を流されるとは誰も思っていないことです。小分け中漏らした場合や、いたずらした者が特定されない場合は、側溝や川などに流出した灯油の処理費用は、ホームタンクの持ち主に請求される場合があります。

このような事故を防止するために、次の事に注意しましょう。

- ① 小分けする時は絶対その場を離れない。
- ② 小分け用のコックレバーに鍵付きのカバーを取り付ける。(市販されている)。
- ③ 小分けしない時は、油コックレバーを取り外しておく。
- ④ 防油堤を設置する。(200リットル以上は設置が必要で)

屋外ホームタンク施工例 (容量200ℓ以上1,000ℓ) 未満



組合初の

女性救命士 2名誕生

県内救急隊員から初となる女性の救急救命士が誕生しました。2人は平成12年4月に採用された県内初の女性消防士でもあり、17年4月から半年の間、東京の研修所で学び、9月25日に国家試験に挑戦。みごと合格しました。

救急救命士の資格を取得した小菅亜紀子消防士は「まだまだ教わる事の多い私ですが、一つ一つの現場を大事にすると共に、救命講習の普及に努め、住民の皆さんにとって安心感のある救命士を目指します。」また、伊藤梢消防士は、「採用当初から憧れを抱いていた救急救命士の資格を取得することが出来てうれしい。今後、救急現場では、患者さんは焦りや不安を感じるのがよく伝わってきますので、患者さんやその家族の方も落ち着かせながら、女性として安心感を与えられるような救急活動をしていきたい。」と抱負を述べています。

救急救命士の資格を取得しますと医師の指示の元、次の救急救命処置をすることが出来ます。

- ① 自動体外式除細動器による除細動
- ② 静脈路確保のための輸液
- ③ 気管内チューブ等による気道確保
- ④ エピネフリンをもちいた薬剤の投与

平成17年の火災件数

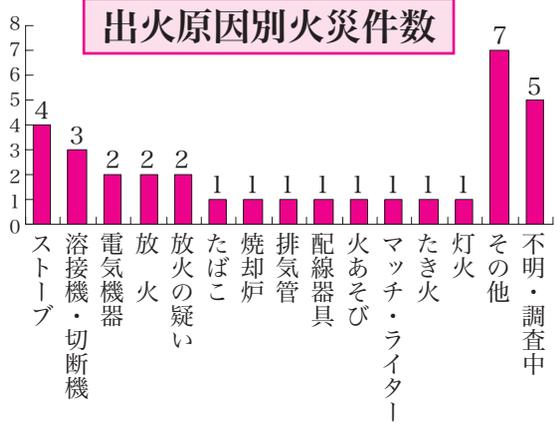
平成17年1月から12月までに北上地区消防組合管内の北上市、西和賀町で発生した火災は33件で、前年に比べ4件減少しました。焼損棟数は28棟、建物焼損面積は2,543平方メートルで、火災損害額は127,754千円となっています。

火災種別では、建物火災が22件、林野火災が2件、車両火災が4件、その他火災が5件となっています。

出火原因は、ストーブが4件、溶接機が3件、電気機器・放火・放火の疑いがそれぞれ2件、たばこ・焼却炉・排気管・配線器具等がそれぞれ1件、その他が7件、不明調査中が5件となっております。

死者は、2人で前年に比べ1人増加しました。負傷者は6人で前年に比べ1人増加しました。

出火原因別火災件数



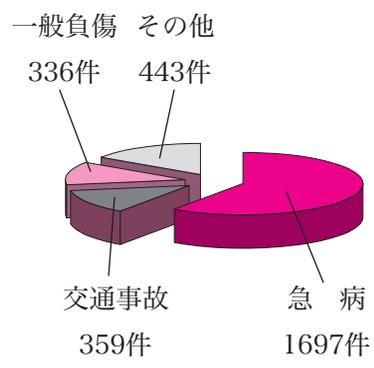
平成17年の救急出動件数

平成17年中に救急車が出動した件数は、2,835件で一日平均約8件出動しています。

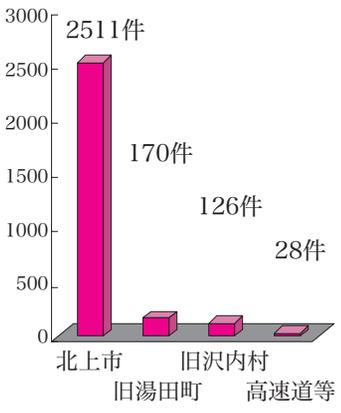
また、救急車で病院に搬送された人は、2,749人で、管内の37人に一人が利用したことになります。

市町村別の出動した件数は、北上市2,511件、旧湯田町170件、旧沢内村126件、高速道等28件となっています。

救急出動件数 (総件数2,835件)



市町村別救急出動件数 (総件数2,835件)



全国女性消防操法 大会を終わって

私達は「西和賀町」となる前の、沢内村婦人消防協力隊連絡協議会として昨年の10月20日（木）横浜市の日本消防協会中央消防訓練場において開催された「第17回全国女性消防操法大会」に岩手県の代表として出場して参りました。結果は惜しくも入賞できませんでしたが、操作員には精一杯頑張ってもらいました。昨年の2月8日から大会までの約九ヶ月間、週2、3回のペースで練習し、延べ練習回数が90回に上り、一週間が短く感じられ予想以上に厳しい日々でした。

でも、私達は一旦決めたことは皆で最後までやりとげ「沢内村に有終の美を飾ろう」を合言葉に頑張りました。長いようで短かった九ヶ月間、今振り返ってみると苦しい日々でしたが、沢内村の代表や岩手県の代表として出場した「全国女性消防操法大会」は私達にとって貴重な体験であり、また一生の良き思い出となりました。これもひとえに村長さんをはじめとする村当局、沢内村消防団及び沢内村婦人消防協力隊連絡協議会の皆様方のご支援と、なによりも署長さんをはじめとする西和賀消防署員が一体となった御指導の賜と感謝申し上げます。

これからも貴重な体験を生かし、新しい町「西和賀町」の地域防災に微力ではありますがお手伝いをして行きたいと思っておりますので、今後とも御指導、ご鞭撻を宜しくお願ひします。最後になりましたが大会当日遠路遙々、私達の応援に駆けつけてくれた全ての人達に感謝申し上げます。



旧沢内村婦人消防協力隊
連絡協議会長 佐々木文字
操作員 佐々木美代子、佐々木雪恵
本多るみ、田村あい子
赤石百合子、米澤ユ子
(氏名・写真左から)

「防火の芽は幼児期から」

北上消防署和賀中部分署



北上消防署和賀中部分署では幼児期に火災の怖さと防火の大切さを伝えようと、職員手作りの紙芝居「どうぶつ村の消防隊」を作成し、分署管内の保育園、幼稚園から好評を得ています。

この取り組みのきっかけは、幼児期から防火意識をもってもらうために新しい企画を考えてはどうかという署員の提案から始まりました。

いくつかの案から幼児向け紙芝居に決定、署員の得意分野を生かしながら製作に取り組み、二週間後、紙芝居から効果音楽が流れる「スーパー紙芝居」が完成しました。紙芝居の内容は、うさぎの「うさ吉」とねずみの「チュー太」の火遊びにより火災が発生、逃げ遅れた子ザルを消防隊と航空隊が全力で救出するというものです。火災の怖さを伝えながら、救助隊、救急隊の仕事、119番通報の仕方など幼児にも理解できるように分かりやすい描写になっています。

最終上演場所となった12月1日、横川目幼稚園（高橋トヨ子園長）では紙芝居のお礼に園児からのお遊戯が披露され、職員と園児のふれあい上演会となりました。製作に携わった署員は「火災で悲しむ人がひとりでも減ってほしい。私たちの思いが園児の心に響いてもらえば」と語り、今後の活動にますます意欲をもやしているところです。